

## 諫早湾干拓農地

# カモ食害、排水不良 国は被害対策を



動画はコチラ

日本共産党

田村貴昭衆院議員が質問



日本共産党の田村貴昭衆院議員は、3月28日の農林水産委員会で、諫早湾干拓農地におけるカモの食害や、水はけの悪い土壌、冷害の問題などについて質問。「巨費を投じて行った事業が海にも、農地にもたくさんの被害を出している。農水省はこの問題にしっかり向き合い、目に見える対策を打つべきだ」と訴えました。質問の会議録（速記）を紹介します。（見出しは当事務所で付けました）

**カモが干拓農地を餌場に。食害被害は約二千三百万円（2016年度）**

○田村貴昭議員 日本共産党の田村貴昭です。

諫早湾干拓工事について、きょうは、干拓農地のことについて、さまざまな問題について質問をさせていただきたいというふうに思います。

国営諫早湾干拓事業は、二〇〇八年から経営体等によって貸付けがされ、今、十年たつていますが、農業が行われているところでありませう。

まず最初に、大臣に伺います。

営農地は長崎県農業振興公社において所有、運営されているわけでありませうけれども、国は、つくったからおしまいではないと私も考えております。

巨費を投じてつくったあの干拓農地について、あるいはそこで行われる農業について、農水省は、大臣は、どのように考えておられるでしょうか。

○齋藤国務大臣 実は、昨年十一月に現地を視察させていただきましたが、その際、諫早湾干拓の造成農地における営農状況を、御説明を伺い、拝見いたしました。

そのとき、レタスとかキャベツなど、大規模な環境保全型の畑作農業が展開されているなど、そして、その中で、香港等への輸出に取り組まれたり、グローバルGAPの認証を取得しましたというお話も伺って、持続可能性を追求した生産を行っている法人がおられるということも視察で目の当たりにしてまいりました。農業者が、大規模で平坦な優良農地で意欲的に営農に取り組まれているなということをそのとき実感いたしました。この造成農地は、今御指摘のように、長崎県農業振興公社が、

国から土地配分を受けて、農業者へ貸付けをされているというものであります。したがって、一義的には、当該農地に係る課題については、農地を所有する同公社において、農業者の皆さんとともに検討されるべきものではありますけれども、農林水産省としては、造成農地における農業振興に向けて、御相談、要望がありましたら、長崎県や諫早市と連携して、しっかりと対応を検討していくというふうに考えているところでございます。

○田村議員 それで、対応を検討していただきたいことがたくさんあるわけなんですけれども、この間、干拓農地ではたくさん問題が生じています。その一つが、カモによる食害であります。

資料①をごらんいただきたいと思っております。諫早の営農地でおととい私が撮ったものでありますけれども、この霜よけシートを破って、カモがレタスを食べているわけでありませう。食いちぎられています。そして、大根の葉っぱは生育途中で食べてしまおうと生育がとまってしまおうとということ、被害のなかったものと比べると、ごらんのとおり



干拓農地を調査する田村衆院議員。右手は葉を食べられて育成が止まった大根＝2018年3月26日

というような状況であります。

このほかに、ブロッコリー、ナバナ、キャベツ、チンゲンサイ、コマツナ等の野菜がやられている。

カモにも嗜好があつて、ハウレンソウとかネギは食べないということがあります。

営農者によれば、こうした被害はもう五、六年前から起こっているということがあります。きのう、きょうの話ではありません。

一昨年、二〇一六年度の食害被害は、全体で約二千三百万円というふうにも公表されています。

国や県に損害賠償を求めて提

訴した農業生産法人の二社は、ことし四千万円の被害が生じているというふうにも述べておられます。

そこで、農水省にお伺いします。

農水省は、干拓地における食害の調査をされていますか。あるいは、食害の原因や被害の実態について詳細は把握されているでしょうか。

**○荒川政府参考人** お答えを申し上げます。

今先生からお話ございました、諫早干拓地におけるカモの被害の実態でございます。

私も農林水産省は、諫早湾に限らず、都道府県の御協力をいただきまして、毎年度、野生鳥獣による農作物の被害状況調査というものを実施しているところでございます。

諫早湾干拓地を含めた諫早市全体でのカモによる被害額というのを頂戴しておりますが、それまではなかったのをごいませが、二十五年度に初めて諫早市でカモによる被害というものが報告をされたところでございまして、そのときは被害額は二十万円だったというふうに承知しております。

その後、先生お話をいただきましたが、二十八年度に約二千三百万円ということ、急増している状況を認識しておるところでございます。

**○田村議員** 全国的にはカモの食害は減っている傾向にあるというふうには聞いていますけれども、ここではふえているというところであります。原因究明が待たれるところなんですけれども、ぜひ関心を持って対応に当たっていただきたいというふうに思います。

一つ飛んで、資料③なんですけれども、環境省から出してもらった、ここ三十年間の諫早湾におけるカモの観測個体数であります。たくさん数字が並んでいるんですけども、毎年数万羽のカモの個体が観測されているということでもあります。

環境省にお伺いするんですけども、水鳥にとって諫早湾の生息環境というのは、この間、ずっと変わってまいりました。潮受け堤防ができた、そしてその堤防も閉まってしまった、そして調整池もできたという環境の変化の中で、この個体数、カモの生息というのはどういふふうに見てとれるでしょうか。

**○米谷政府参考人** 環境省では、我が国で越冬するガン、カモ、ハクチョウ類の生息状況を把握するため、都道府県に依頼して、毎年一月に全国一斉調査を実施しています。

調査地の一つである諫早湾においては、昭和六十三年度より継続して調査を実施しているところでございます。

調査日の天候等の条件で数の増減はありますが、過去三十年の調査において、諫早湾においては、少ない年で約八千羽、多い年で約七万羽のカモ類がカウントされています。

なお、諫早干拓事業による潮受け堤防の締切り前の九年の平均で約三万四千羽、締切り後の九年の平均で約二万四千羽のカモ類がカウントされ、平均で減少が見られたものの、直近の十年の平均では約三万八千羽のカモ類がカウントされ、回復傾向が見られているところであります。

これらの個体数の変化はありますが、干拓事業との因果関係については、現時点でにわかには判断することが難しいという状況でございます。

カモの生息地に干拓農地ができれば食害被害は必然の流れ。被害農家の声を聞き、国はしっかり対策を

○田村議員 諫早のカモは干拓工事前からたくさん飛来してきた、全体として見れば余り変わっていないというふうな話であったというふうに思います。

もともとこの諫早湾には多数のカモが生息していたというところで、そこに農地ができたわけなんですよね。ここで生息するカモにとって餌は重要であり、農地ができてそこでおいしい野菜ができることによって、その餌として野菜をついばむことになっていく。言ってみれば、この食害というのは、干拓営農地づくり、干拓事業の過程の中で起こった必然の流れであるというふうに私は捉えているわけです。

この表は、カモは二つに分けられて、海カモとそれから陸カモ。食害を及ぼすのは陸カモなんですけれども、黄色を陸カモ、水色の方を海カモというふうに識別をしました。

この陸カモの個体数はどうな

っているでしょうか。マガモ、カルガモ、オナガガモ、トモエガモなどの陸カモの個体数。営農開始の二〇〇八年と二〇一八年の個体数を教えていただけませんか。

○米谷政府参考人 ガンカモ調査の結果で、マガモ等のいわゆる陸ガモは、二〇〇八年に千六百十五羽がカウントされています。二〇一八年は、暫定値ですが、一万七十二羽がカウントされているところでございます。

このうち五千三百九十四羽は、これまでの諫早湾での調査で観察記録がなかったトモエガモが占めているという状況でございます。

なお、渡りの時期やルートの変動、調査日の天候等の条件でも渡り鳥の数の増減があるところであり、単純に単年度ごとの比較はできないと考えておるところでございます。

○田村議員 今のお話をグラフ化したのが資料④であります。

陸カモの個体数は営農開始とともにふえて、最近急増しています。その習性と食害との因果関係については解明されなければならぬわけですが、

この陸カモが急増している、諫早湾の干拓地において急増している、諫早湾において急増しているという事は重要なことでもあります。このカモが農地を餌場とするならば、これは重大問題になってまいります。

そこで、農水省にお伺いします。被害は長く続いているわけですが、対策は今からだといいことなんですか。大規模農業でありますから、その被害額についても半端ではありませぬ。収入は減る中で、リース料や土地改良賦課金で営農者は一ヘクター当たり二十七万円払わなければならないということでもあります。

被害農家の悩み、要求に対して自治体、公社と一緒に耳を傾けて、原因の究明と対策にしっかりと国としてかわっていただきたいと思っております。いかがでしょうか。

○荒川政府参考人 お答え申し上げます。

今先生お話しございました諫早湾干拓農地のカモ被害でございますが、先ほどもちよつと御答弁させていただきます。二十五年に初めて被害報告を私ど

もいただきました。その後も低位で推移をしておったんですが、二十八年度に二千三百万円というところで急増しております。このこと、原因究明も含めて、被害対策、これからしっかりとやっていかなきゃいけないというふうな認識をしております。

諫早市におかれましては、まず個体数を減らすという意味での銃による捕獲はもとよりでございますけれども、農作物を守るための不織布等を作物に直接被覆する形でのべたがけ、先ほど先生の資料にございましたけれども、あいつたもの、これも不織布の種類によつていろいろ効果があり得るということ、そういったものを実施していただくという、あるいは、吹き流しといたしまして、棒の先にひらひらをつけてというふうなことをしっかりとやっていくというふうなことだと思っております。

また、最近、長崎県といたしましては、カモの天敵でありますミズクの鳴き声を利用しましたカモの追い払い装置の設置ですとか、それから、ドロップネットといたしまして、そういうものをしっかりと長崎県の方でも

取り組んでおられるというふう  
に承知しております。

我々、鳥獣被害防止対策総合  
交付金がございますので、この  
交付金を使いまして、県、市と  
よく相談をしながらやってまい  
りたいと思っております。

**○田村議員** それが功を奏して  
いない、そして本格的な対策は  
今からだ、自治体もそういう状  
況なんですよね。だからこそ知  
見のある農水省がしっかりと  
わっていただきたいということ  
なんです。わかっていただけ  
だと思います。

**諫干事業が海に異変をもたら  
し、干拓農地にも困難をもた  
らしている。国は目をそむけ  
ず、しっかりとした対策を**

最後に大臣にお伺いしたいん  
ですけれども、食害だけじゃな  
いんですよね、干拓営農地。

この資料②に戻っていただき  
たいんですけれども、これはち  
よつと畑の土とは見えないんで  
すけれども、これは土なんです  
よね。トラクターが通った後、  
排水不良があつて、雨が降って  
いないのに水がたまつたまま

ある。こうしたところでつくつ  
た大根というのは、生育が、伸  
びない。それから、調整池、こ  
れは海流が流れてきませんので、  
調整池そのままですから、冬は  
外の気温よりも数度低い、二度  
から五度ぐらい低いといったと  
ころで、凍傷、大根でいうと、  
土の部分に出たところの皮がめ  
くれる、こんな被害があるわけ  
であります。食害に加えて冷害、  
それから排水不良と土壌の問題、  
こうした問題があるわけなん  
です。

大臣、去年の記者会見、十一  
月に、優良農地というふうに評  
価されたんですけれども、一概  
に優良農地ではないんじゃない  
かと私は思うわけですけれども、  
いかがでしょうか。

せっかくなつくつた農地であり  
ます。ここでの農業生産と振興、  
私もそういう同じ思いを持って  
います。ただ、障害がある。農  
家と農業経営体が今苦難に直面  
をしているわけであります。農  
水省は、しっかりと、つくつた  
立場でありますので対策と支援  
を尽くすべきだと思いますけれ  
ども、短い時間で私主張させて  
いただきました、大臣、いかが  
でしょうか。

**○齋藤国務大臣** 諫早湾干拓の  
造成農地における推定農業産出  
額は、平成二十年年度の約二十億  
円から平成二十八年年度には約三  
十八億円へと着実に増加をして  
きておりまして、生産性が高く  
て実需者ニーズに対応した営農  
が全体としてはなされているの  
ではないかと認識をしております  
が、ただ一方で、さまざまな  
問題があるのも、それは現実と  
してあるわけであります。

今、諫早湾干拓の造成農地は、  
調整池を水源としたかんがい用  
水を完備した、大型機械による  
効率的な農業が可能な標準区画  
六ヘクタールの平たんで大規模  
な農地でありますので、優良農  
地であると考えております。

しかしながら、営農者から圃  
場の排水対策、先ほど絵を見せ  
ていただきましたけれども、排  
水対策について要望があつたの  
で、平成二十八年に長崎県農業  
振興公社が造成農地の排水不良  
に対するアンケートや営農者へ  
の聞き取り調査を実施いたしま  
して、約三割の区画で排水不良  
との結果を得たというふうに聞  
いております。

その後、同公社が現地調査を  
いたしましたところ、諫早湾干

拓事業の欠陥ではなく、地盤沈  
下や営農上の排水管理の問題が  
あるということがわかつて、現  
在、同公社において、農地に緩  
やかな勾配をつけるための工事  
を行うなど、対策に着手をして  
いるというところでございます。  
農林水産省としても、先ほど  
申し上げましたが、造成農地に  
おける農業振興に向けて、相談  
や要望があれば、長崎県や諫早  
市と連携して対応を検討してい  
きたいと考えているところでご  
ざいます。

**○田村議員** 二千五百三十三億  
円、巨費を投じての諫早湾干拓  
工事、これは海に対しては取り  
返しのつかない被害も起こり、  
そして異変を起こしました。お  
かにおいても、農地においても  
これだけの問題があるわけなん  
です。

全てが干拓事業、国策から始  
まった事業であります。私は、  
海にも、そして畑にもたくさん  
の問題があるというふうに思  
います。この問題から農水省はし  
っかりと逃げないで向き合っ  
て、目に見える対策を打っていただ  
きたいというふうに思います。  
きょうは以上で終わります。